Rotary International District 2790 Chiba Japan

大網ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin

■クラブ創立：2000 年 1 月 13 日
■例会日：第 1・第 3 水曜日（12：30～13：30）
■例会場：中部コミュニティセンター
TEL0475-73-3337　FAX73-4360
■事務所：〒299-3251
大網白里市大網 450-6　ユアサビル 2 階
TEL0475-70-0200　FAX70-0220
■会 長：高野　祐二　　幹 事：板倉　孝雄
■広報・公共イメージ向上委員会
委員長　斉藤　幸男・会報担当　石田　英世

2020 年 11 月 4 日（水）

第 22 巻 第　11

通巻第９５４号

http://www.oamirotary.com
E-mail　rc@oamirotary.com

ロータリーは機会の扉を開く

本日の例会

点　　鐘　会長　高野　祐二
唱　　和　四つのテスト
ソ ン グ　奉仕の理想
会長挨拶　会長　高野　祐二
幹事報告　幹事　板倉　孝雄
プログラム
①誕生祝い　佐藤廣子会員、望月昭宏会員
②奨学金授与式
米山奨学生　ロシャーンさん
③卓話　大網白里市出前講座
「自分の命と自分たちの地域を守るには
～防災の知識編」

ニコニコ BOX

なし

例会日	10 月 21 日	10 月 7 日
会員数	30	30
出　席	18	19
欠　席	12	11
MU	0	0
免　除	1	0
出席率	63.33	63.33

会長挨拶

高野　祐二　会長

皆様こんにちは。１０月７日ガバナー公式訪問、皆様方のおかげで無事終了することができました。特に板倉幹事には、事前の打ち合わせ、会場の設営、資料の作成など、あらゆる準備をしていただきました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。　今年度の重要な行事は、これで終了しましたのでほっとしております。
そして IM や地区大会もあり、どのように開催されるかまだ分からない状況でございますが、皆様方のご協力をお願いします。

本日は、ガバナー懇談会の話をさせていただきます。事前にクラブが抱える課題を挙げていたのですが、まず一つ目はクラブ会員の高齢化の問題です。当クラブでは、会社の運営をある程度息子さんに任せておられる方が何名かおられます。親子での入会については、三枝ガバナー補佐から茂原クラブでもそのことが話されているみたいです。やはりこのことは、クラブ内で議論する問題であると思います。　また、寄付金についてですが、当クラブは、四之宮会員のご努力で米山奨学金、ロータリー財団の寄付をしていただける方を探していただき、毎年３名ずつお願いしております。そういった事もあり、寄付金は行われており、それだけで十分であると思われている会員が多いのではないでしょうか。
その方々以外からは、寄付金はされていないのが現状であります。漆原ガバナーの勝浦クラブでは、年会費をお願いするときに、寄付金を募る文言を入れているとのことでした。当クラブも会員の意識を上げるために、このような取り組みをしていきたいと思っております。そして最後に今年度 RI 会長の目標でもあります、クラブの中長期戦略を考えなければならないと思っております。それらの事を次回の理事会の議題に入れ、話し合いをしていきたいと考えております。

まとまらない話ですが挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

子ども食堂支援金・10 月誕生祝

支援金を大越会員へ

清宮 満巖 会員　S21（1946）10.16

幹 事 報 告

板倉 孝雄 幹事

先日のガバナー公式訪問のご協力に感謝！

1. 2023－24 年度ガバナーノミニー・デジグネートの公表
2. 2021-22 年度 2790 地区主要会議日程のお知らせ
2021 年 4 月 25 日　地区研修、協議会（日）アパホテル（幕張）
10 月 31 日地区大会（日）
3. 2021-22 年度　地区委員　ご推薦のお願い。
〆切　11 月 18 日（水）
現在　佐藤廣子会員（米山記念奨学委員会）

次回例会　理事会　11 月 4 日（水）

10 月 22 日（木）開催 子ども食堂

写真提供：大越将司会員

会員卓話

四之宮　由己　会員

佐倉宗吾郎のお話

世に義民として知られる宗吾は、本名を木内惣吾郎といい、下総国佐倉藩公津村に慶長 17 年（1612）に誕生した。公津村の名主を務め、さらに佐倉藩 389 ヶ村の名主総代であった。

正保元年（1644）から続いた大飢饉では、多くの農民は塗炭の苦しみに喘ぎ、租税や年貢米の怠納が続出した。宗吾郎は私財をなげうって救助米を施し、藩主堀田正盛から賞讃されて苗字帯刀を許された。
しかし正盛の嫡子堀田正信が家督を継いだ後、さらなる増税となり苛酷な取り立てが行われた。

承応元年（1652）秋に襲来した暴風雨で、農作物は全滅であった。農民たちの中には一家離散や餓死する者も出た。名主たちは農民を救済し、年貢減額を藩に願い出たが、藩では増税断行の強い態度を弛めなかった。代表名主たちは江戸へ出て嘆願書を佐倉藩上屋敷に差し出し、老中久世広之にも願い出たが、お取り上げにはならなかった。

〈直訴〉
最後の手段―将軍家に直訴―を決意した宗吾郎は、公津村台方の家へ戻り、家族に後難が及ばないように、妻を離縁し、幼い 4 人の子供たちを勘当した。屋敷内にある椿井で妻子との別れの水盃を交わした。 印旛沼を渡るにあたり、船主甚兵衛の力を借り、承応元年（1652）12 月 20 日、上野東叡山寛永寺。四代将軍家綱一行の墓参りのおり、宗吾郎は直訴状を差し出した。側近保科正之の手に納められた。
直訴は成功し、その後三年間は農税が免除され、さらに諸税の軽減が行われた。

しかし、将軍様への直訴はご法度、お縄となった宗吾郎は、勘当が認められなかった 4 人の子供たちと共に、承応 2 年（1653）8 月 3 日、公津ヶ原刑場で処刑された。

宗吾郎 42 才、彦七 11 才、ホウ 9 才、トク 6 才、トヂ 3 才であった。刑場跡には宗吾塚が築かれ、その後宗吾霊堂が建立された。

〈木内家再興〉

宗吾郎には 6 人の子供がおり、4 人は共に処刑されたが、長女と次女は直訴前に水戸領の名主へ嫁いでいたため刑を免れた。

後に佐倉藩から木内家再興が認められ、次女ハツが公津村の実家へ戻り、利左衛門を婿にして木内家を継いだ。

その後、堀田家歴代藩主がかつての失政を悔い、父子の供養を行っている。
子孫は現在でも続いていて、宗吾郎の生家は「宗吾旧宅」として知られています。

甚兵衛渡し場の石碑文の一部
昭和 55 年 当時成田市長　長谷川録太郎　碑文

宗吾様直訴の大義を知るや、一身を堵しての偉業を扶けんものと、禁制の鎖を断ち切り、往復の渡舟を果せり、而して宗吾様は直訴の本懐を遂げたるも、甚兵衛翁は汚吏（おり）捕縛を嫌い、自ら印幡沼に入水投身し、62 才の生涯を終れり。
夫れ、人は 1 代名は萬世名勝、水神の森。
甚兵衛の渡しとして、今も尚、翁の英魂は永遠にこの地に鎮まれり。

昭和 55 年 10 月吉日
石碑奉納　千葉市土気町　花沢壽夫　建立（花沢三郎　元県議の父）

吹雪　宗吾郎　歌手：香取幸江　　作詩：野本 高平 ・ 作曲：弦 哲也（銚子市出身）

① 命かけても守らにゃならぬ、389 ヶ村
女房頼むぞいとし子達を、江戸へ旅立つ宗吾には
雪も門出の、雪も門出の、たむけ花

② 越すに越されぬ甚兵衛渡し　胸にや覚悟の願い文
あわれ下総百姓衆の 年貢苦労の死の叫び
聞こえませぬか、聞こえませぬか、お上には

③ 雪は晴れたが涙は残る　何故に我が子もあの世まで
男宗吾は公津ヶ原の 露と消えても 恨まぬが
鳴るな無情の、鳴るな無情の、送り鐘